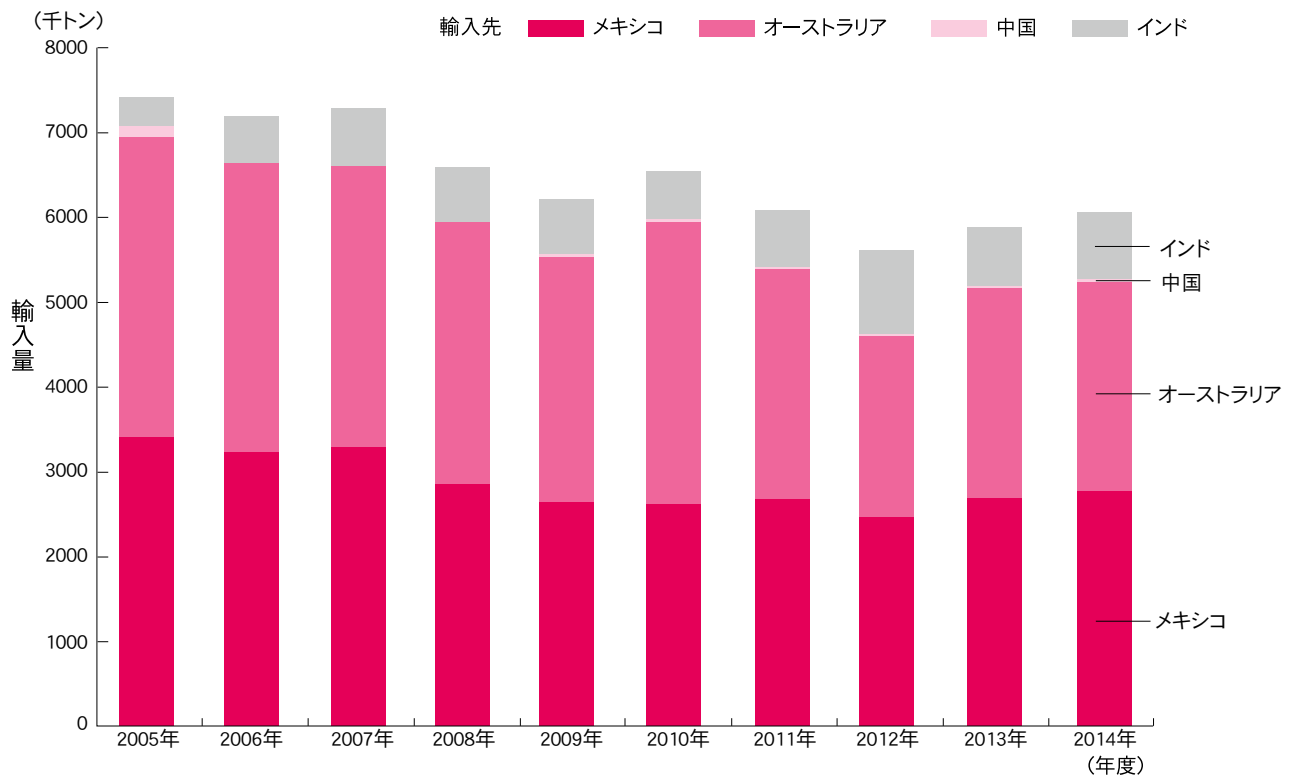


# ソーダ工業用原料塩の輸入推移



(単位：千トン、構成比%)

年度	需要量	輸入量	国別輸入量							
			メキシコ		オーストラリア		インド		中国	
			数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率
2005年	7,236	7,427	3,397	45.7	3,592	48.4	361	4.9	77	1.0
2006年	7,203	7,217	3,245	45.0	3,530	48.9	439	6.1	3	0.0
2007年	7,219	7,382	3,367	45.6	3,319	45.0	696	9.4	—	—
2008年	6,589	6,613	2,779	42.0	3,163	47.8	671	10.2	—	—
2009年	6,174	6,211	2,656	42.8	2,892	46.6	656	10.5	6	0.1
2010年	6,638	6,576	2,652	40.0	3,329	50.2	648	9.7	8	0.1
2011年	6,074	6,100	2,692	44.1	2,634	43.2	765	12.5	10	0.2
2012年	5,701	5,667	2,456	43.3	2,189	38.7	1,015	17.9	7	0.1
2013年	5,856	5,884	2,786	47.3	2,383	40.5	711	12.1	4	0.1
2014年	5,790	6,065	2,881	47.5	2,356	38.8	824	13.6	4	0.1

現在、ソーダ工業の原料となる塩は、すべてが輸入されており、そのほとんどが、メキシコ、オーストラリア、インドの天日塩です。

昭和40年代以降に、地形、気象条件など、塩田の構築に適したメキシコ、オーストラリアに大規模塩田が整備され、日本国内でもこれに合わせて、受け入れ港湾が整備されたことなどから、この2カ国に輸入が集中しました。

2014年度はメキシコから2,881千トン、オーストラ

リアから2,356千トンのソーダ工業用原料塩が輸入され、この2カ国で全体の約86%を占めています。

この他、インドからは824千トンが輸入され、その比率は約14%となりました。

また、中国塩は、かつては年間100万トン以上が輸入されていましたが、中国国内のソーダ工業の発展から、塩の国内需要が急増し、中国塩の輸入はごく少量となっています。